

またイタリアへ行ってきた。先月のパリに続き、今年はヨーロッパと縁がある。

それにしても、今回のスケジュールは殺人的であった。何せ、日曜日に仕事が終わった段階で直ぐに大阪へ移動、月曜日の朝8時過ぎには空港のカウンターにチェックイン。

その際、あまりの軽装(2キロも無かった・・・)に、カウンターのお姉さんが「荷物これだけですかっ!？」と目を丸くする。

「そうっすよ」という私の言葉も聞かず、さらに聞き返してくる。「荷物ホントにこれだけですかっ?」

くどいっ!! 何度聞くんじゃいっ! と心で叫ぶも、そりゃそうだ。観光客って重いスーツケースとかゴロゴロってのが普通だもんね。そういうのは私のスタイルではないのだ。

その後約11時間のフライトでオランダ・アムステルダムスキポール空港でトランジット。ちなみに、到着時間は午後3時過ぎである。しかも、アムスで最終目的地、ボローニャまでのトランジット・フライト待ち、5時間。果てしなく暇である。

オランダに入国して時間を潰すことも考えたが(空港から街まで電車で約20分!),スキポール空港内での探検も捨てがたい。何と行ってもEU圏で最大のハブ空港だ。ショッピングモールも結構充実してるから、みやげ物の散策にも都合が良い。

売店で、現地の妖しげな缶ジュースをありったけ買いこみ、そのテイスティングをして遊んだり、ITカフェでネットサーフ、レース雑誌や新聞を買って読んでみたり(ただし、当然オランダ語!)と、結構時間はつぶれるものだ。

午後8時過ぎのボローニャ行きに搭乗、アルプスの上を飛行し、一路イタリアへ。
ボローニャ着、午後10時過ぎ。

荷物を受け取り、レンタカーの手配を終わってからようやく街に入る。が、である。今回スケジュールで自由に動ける時間はたった1日しかない! となると、必然的に今日中に用事のあるパルマへ移動し、明日早朝から行動できるよう、スタンバラなくてはならない。

で、アウトストラダ・A1号線を北へ北へ、150キロ余り。あ、ちなみに今回借りた車はフィアット・プントの1.2リッター。室内は広いし、操作もしやすい。でも、昨年のクリオ程の感動は無い、普通の乗用車だった・・・。

深夜12時前にパルマ着、ここでホテルを探す。が、運の悪いことにフィエスタの真っ最中とかで、街中のホテルというホテルが満杯。「マジっすか・・・」、いまさら何を言ってもどうなるものでもない、仕方なく腹をくくって車中泊。

翌朝、火曜日。あまりの寒さに6時前に目を覚ます。ハラは減るし、顔も洗いたいしで、アウトストラダにあるサービスエリアに駆け込み、トイレで歯を磨き、顔を洗い、売店でパニーニを買って食す。

前回来ている街で土地感があるとはいえ、まるでここが日本のように行動している自分が妙に笑える。もはや、このアウトストラダ・A1号線が結ぶ、パルマ、モデナ、ボローニャは自分の街になっているらしい。

行動時間は本日、火曜日しかない。明日、水曜の朝10時前のフライトで、再びボローニャからアムスへ、そして日本へ帰らなくてはならないのだ。

パルマで目的の用事を済ませ、再びA1を飛ばしてモデナへ。道路が目一杯飛ばせるから、少々の距離でも短時間で移動できる。やはり、イタリアの交通は性に合っている。

そして、モデナにてようやくホテルを確保し、ベットと熱いシャワーを手に入れることが出来たのである。ここでの用事も完了し、しばしの安息も束の間、水曜日は朝6時過ぎに起床。再びシャワーを浴びて、朝食も取らずに7時前にはチェックアウト。

なぜなら……。この時期は雨が降る。予想通り、前日までの快晴が嘘のように強めの雨が道を叩いている。

計算上は、8時過ぎにモデナを出発すれば余裕でボローニャに入れるし、9時のチェックインも楽々。

しかし、いくら土地感があるといっても、モデナからボローニャへ移動して、尚且つこの雨で移動速度も落ちることを考慮すると、安全率を高く見積らざるを得ない。そして、その決断が正しかったことをボローニャ周辺に入ってから思い知ることになるのであった。

深い霧だ。しかも、朝8時ごろまでは夜が明けないから、クルマで走行するには相当厄介である。幸いにもこの霧に包まれる頃には空港を目の前にしていたので、影響は全く無かったが、もしモデナでグズグズしていたら、フライトに間に合わなかった可能性は高い。

無事アムス行きに搭乗し、窓から美しいアルプスを眺めながらのフライトであった。

が、である。なかなか今回はゆっくり旅を楽しませてくれない。アムス到着は13時05分、そしてアムス発の時間は何と13時25分なのである！

しかも、ボローニャ便が到着したのはB1ゲート。日本便のゲートはF9ゲート。これって、世界でも大きな部類に入るスキポール空港内で、ゲートの端から端を結んでいるのだ。途中パスポートコントロールもあり、その通関に人はごった返し、20分の猶予は決して楽な移動ではない。

これほど走ったことは久しくないぞ！ と、とにかく走って、人をかき分け、ようやくF9ゲートに到着。ところが、モニターには出発が遅れると表示されている。つい数分前に変更になっただけ。出発は14時25分に……。奇跡的なチカラを発揮して、息を切らして13時30分にゲートに滑り込んだ私の努力は、結局不毛であった。

しかし、これだけの弾丸ツアーを敢行したという満足感は大変なものである。思い立ったらスグ行動！ がモットーの私としては、とりあえず充足し、何より無事に日本に帰ってきて「ホッ」としている。

この手記は、この「Touch&Go作戦」の約3～4日後に書いているのだが、たった数日前のことなのに、まるで夢の中の出来事のように、まるで現実感が無い。あるのはみやげ物と写真ばかりである。

本当に行って来たのか？ 俺??